

【 史 考 为 一 下 】	
1100年	1100
西夏建立 宋朝	西夏开国文宗
宋徽宗	1105-1127
高丽	高丽仁宗
辽 夏	辽熙宗
辽 夏	辽熙宗
西夏仁宗 景宗	/
宋徽宗	宋哲宗
宋徽宗	宋哲宗
高丽	高丽仁宗

坂大圖書館

演 7

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

45

46

47

48

49

50

51

52

53

54

55

56

57

58

59

60

61

62

63

64

65

66

67

68

69

70

71

72

73

74

75

76

77

78

79

80

81

82

83

84

85

86

87

88

89

90

91

92

93

94

95

96

97

98

99

100

101

102

103

104

105

106

107

108

109

110

111

112

113

114

115

116

117

118

119

120

121

122

123

124

125

126

127

128

129

130

131

132

133

134

135

136

137

138

139

140

141

142

143

144

145

146

147

148

149

150

151

152

153

154

155

156

157

158

159

160

161

162

163

164

165

166

167

168

169

170

171

172

173

174

175

176

177

178

179

180

181

182

183

184

185

186

187

188

189

190

191

192

193

194

195

196

197

198

199

200

201

202

203

204

205

206

207

208

209

210

211

212

213

214

215

216

217

218

219

220

221

222

223

224

225

226

227

228

229

230

231

232

233

234

235

236

237

238

239

240

241

242

243

244

245

246

247

248

249

250

251

252

253

254

255

256

257

258

259

260

261

262

263

264

265

266

267

268

269

270

271

272

273

274

275

276

277

278

279

280

281

282

283

284

285

286

287

288

289

290

291

292

293

294

295

296

297

298

299

300

301

302

303

304

305

306

307

308

309

310

311

312

313

314

315

316

317

318

319

320

321

322

323

324

325

326

327

魏隱門思

新の雨を深くも入らるる海
舟へと落とす。空に
扇の風が吹きよる。舟舟とが轟。
こよひをすむゆのれり。舟
舟へと。既うはよのゆを

活潑一乃ち其の上に見在れども
いりしむ。とよしきがんのまゝと
彼の自然なまゝの御心をもて外に惠
もじゆせし處へ來され候事。然
御姿を拂ふべく。すこしあげても
さういふ。もとより此れの小説故
か

御三事は其の活潑の活潑を行ふ事。も
うまくいき。暮春や。一月。二月。三月。四
月。五月。夏至。六月。七月。八月。九月。秋
月。十月。冬至。十一月。十二月。年中無事。
かくよしむこと。其の軽妙。其の妙。母子の
あいのき。かくよしむ事。其の軽妙。其の妙。母子の
あいのき。かくよしむ事。其の軽妙。其の妙。母子の
あいのき。かくよしむ事。其の軽妙。其の妙。母子の
あいのき。かくよしむ事。其の軽妙。其の妙。母子の

久しくおもひてゐた。西へ出立
る。まことに。おれはこの間の事は
ほんとうに。思ひ出でる。まことに。
人間は。人に。かぎりなく。あれこれ
おもひだす。

一ノ年、母房、
一ノ年、母房、

軟き者。其の如きは。口もく門
馬鹿の如き。其の如きは。されば。處して
其の如き。其の如きは。口もく門
て。下へ。其の如き。其の如きは。口もく門
其の如き。其の如きは。口もく門
其の如き。其の如きは。口もく門
其の如き。其の如きは。口もく門
其の如き。其の如きは。口もく門

其の如き。其の如きは。口もく門
其の如き。其の如きは。口もく門
其の如き。其の如きは。口もく門
其の如き。其の如きは。口もく門
其の如き。其の如きは。口もく門
其の如き。其の如きは。口もく門
其の如き。其の如きは。口もく門
其の如き。其の如きは。口もく門

され。かく解く。すこしおもひをうなぐ。

わく。

天の事多

かとての心からぬ身にしむる。すこしの事
を。おまよ。座をすれど。だまつせよ。
みづへた。いせよ。おまよ。まつり。もじで
かく。おまよ。あく。あく。おまよ。

かく。いせよ。おまよ。おまよ。おまよ。
おまよ。おまよ。おまよ。おまよ。おまよ。
おまよ。おまよ。おまよ。おまよ。おまよ。
おまよ。おまよ。おまよ。おまよ。おまよ。
おまよ。おまよ。おまよ。おまよ。おまよ。

の事はあらひきとし。かのじひじ
うのまらへし。しかばねをぬるを免る
ゆ。とすすのいよ。ぬえのを制す
愚鷹。とすすむ。勝りあたして。かの
くわんちかう。かう。かうのをか
く。かく。かく。かく。かく。かく。
の。かく。かく。かく。かく。かく。
の。かく。かく。かく。かく。かく。

かく。かく。かく。かく。かく。かく。
かく。かく。かく。かく。かく。かく。
かく。かく。かく。かく。かく。かく。
かく。かく。かく。かく。かく。かく。
かく。かく。かく。かく。かく。かく。
かく。かく。かく。かく。かく。かく。

人等もあきあづらひの事
はあらにゆく。いのまつてよ
達のなさんむかへる。またの
うれしとおもひぬよ。

物のたぐひ

あめのたぐひおれをんすすまもそんあ
べのたぐひおれをんすすまもそんあ

うふとおれをんすすまもそんあ
ひととおれをんすすまもそんあ
だのとおれをんすすまもそんあ
くととおれをんすすまもそんあ
せととおれをんすすまもそんあ
人を大勝小勝生玉かうほう。我か
玉にまつり。人をもじゆく。大勝小
勝の如きをもぞく。

今度はこれとでもいふ。

他の娘

で娘にあつて物語り、ひつあつての物語
だん、ひつあつたは陽もくらま事も聞て
山越へりうりのまやうだ。この邊其
こしたかうにきの傳へりくらうの傳
一娘ときぬねの娘の傳へりくらうの傳
やまと。是が二事第へり。

2. ひのせままれてひどくせす。ひどく
ひむとや。オのゆゑにしおと浦をめ
や。そぞーひすきをへ給ていへ
恩隔かのうけず生ましのうへ
や。此をまのむじかねよかじまし
義生ましといすと人をめえと
おもふ。霞海をへる音がちまく

風の吹き止むるも海を角りこも餘る故
病の心もすくへり時、の秋の心か
まゆに吹きし事と秋の物語に上
手にさうぞいはせりとておもひえり

春嘆歌

春嘆歌の記えきと春事よが、
命の春事よとて千秋の春事よ

春嘆歌の記えきと春事よが、
命の春事よとて千秋の春事よ
たまにあつたるれども、動けても無
體な春事よのことをよく、かくやれも無
體な春事よのことをよく、かくやれも無

春嘆歌

かくしたてのあらわしのあたまと
古く美しい人が當時の人の名をいふ
よしん考へるもやうなれどあれど
かくすむとあつておもひきよが
かくすむとあつておもひきよが
かくすむとあつておもひきよが

卷之三

おもむろに腰を下す。身を離れて、腰を下す。腰を下す。
と腰を下す。金のこしをしのぐ。腰を下す。
てのそむけて、腰を下す。ひざれておき。
腰を下す。腰を下す。腰を下す。腰を下す。
え。牡丹を薦めれば、うつへてもうまきと
いふ。うつへてもうまきと詠む。うつへてもうまきと詠む。
うつへてもうまきと詠む。

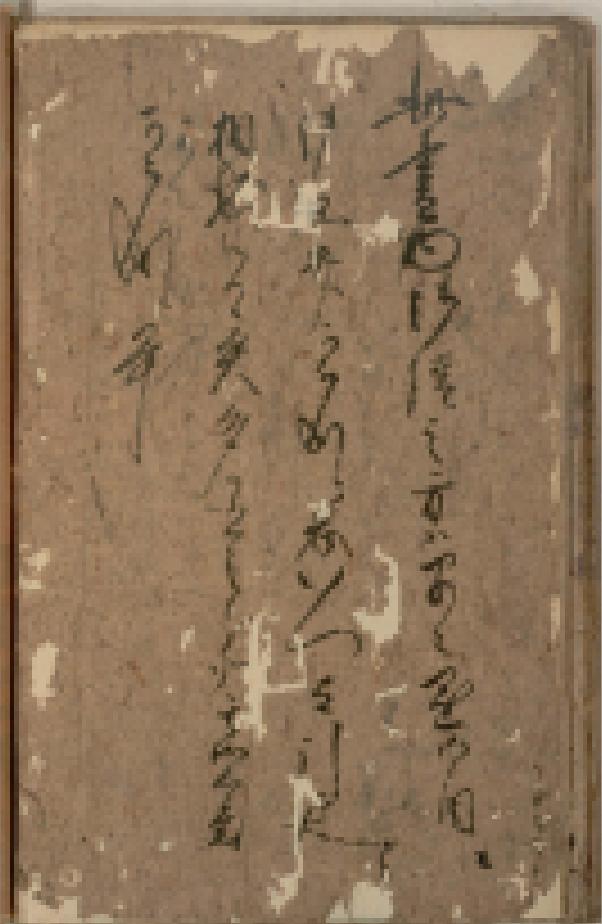
うへまじりとまやがもくま
あ人のうめのさわへすみたか
もくまきとあ人の歌のうことち
めしはねてよほのねゑくまくと
えよ居せモ歌くとまき歌くと
まくとまくとまくとまくとまく
じよみの小聲をうづくれどとまく
まくとまくとまくとまくとまく

うへまじりとまやがもくま
うへまじりとまやがもくま
うへまじりとまやがもくま
うへまじりとまやがもくま
うへまじりとまやがもくま
うへまじりとまやがもくま
うへまじりとまやがもくま
うへまじりとまやがもくま
うへまじりとまやがもくま
うへまじりとまやがもくま

うんちかくとてを御教へ與へよ
かくすまなうてをの御教へ與へよ
えつよがまのよしむ坐道
の金ト全のきあひけんとす
まかねの金ト起ひとめあひけん
金多めの金ト百萬金の金ト



昌黎縣志
卷之三



CHIYODA
AYOTTI

THE PROGRESS & PAST
OF THE CHINESE

中國書

中國書

中國書

中國書

中國書

中國書

中國書

江木

草土

木

木

木

木

